

300 | IgG4関連疾患

P4 又は P4~P5

■ 重症度分類に関する事項

- ステロイド依存性（十分量のステロイド治療を行い寛解導入したが、ステロイド減量や中止で 臓器障害が再燃し、離脱できない場合）
- ステロイド抵抗性（十分量のステロイド治療＜初回投与量（0.5~0.6mg/kg）＞を6か月間行っても寛解導入できず、臓器障害が残る場合）
- いずれにも該当しない

臓器障害の程度

- 腎臓：CKD 重症度分類ヒートマップが赤の部分の場合
- 胆道：閉塞性黄疸が解除できずステント挿入などが必要、また
- 膵臓：閉塞性黄疸が解除できずステント挿入などが必要、また膵外分泌機能不全
- 呼吸器：PaO₂ が 60Torr 以下の低酸素血症が持続する
- 後腹膜・血管：尿路の閉塞が持続する、血管破裂、あるいはそ
- 下垂体：ホルモンの補償療法が必要

いずれの重症度分類においても、**臓器障害は必須**です。「臓器障害の程度」において、該当する病状の程度を記載してください。

なお、列記している臓器以外の臓器障害の場合には、障害がある臓器及び障害の程度を特記事項に記載してください。

300 | IgG4関連疾患②

P4 又は P4～P5

■ 重症度分類に関する事項

- ステロイド依存性（十分量のステロイド治療を行い寛解導入したが、ステロイド減量や中止で臓器障害が再燃し、離脱できない場合）
- ステロイド抵抗性（十分量のステロイド治療＜初回投与量（0.5～0.6mg/kg）＞を6か月間行っても寛解導入できず、臓器障害が残る場合）
- いずれにも該当しない

「ステロイド抵抗性」を選択する場合、治療開始後6か月を経過した後に重症度の判定を行ってください。

記載年月日が発症年月から6か月未満等、治療開始後6か月を経過していないことを確認した場合には、重症度を満たしません。